

寄贈図書 月刊『高雄日僑会誌』について

先に絵葉書を始めとする中国天津に関する資料を多数寄贈してくださった近藤恒弘さんから、今回は台湾高雄在住の日本人で組織する日僑協会高雄支部が発行する月刊『高雄日僑会誌』を寄贈していただいた。確認を取るに至っていないが、創刊号の発行は1974年1月と思われ、同年5月発行の第5号から1995年9月号まで（そのうち、1975年から1994年まではほぼ全号）の計215冊を頂戴した。近藤さんのお話では、今でも発行されているのではないかとのこと。

同時に、『高雄日本人学校創立十周年記念誌』を含む同学校の出版物を数点いただいた。海外各地で働き生活する日本人が発行している雑誌類は多数に上るはずであるが、そうした現地の活動記録を活用する機会を探りたいものである。（大里浩秋記）

高雄日僑会誌を寄贈するにあたって

近藤 恒弘（民間収集家）

私は38歳の時に台湾に渡り、30年ほど台湾に居住しましたが、最初は高雄にある米国企業に単身赴任での勤務でしたので、高雄の日本人会には入会しておりませんでした。その後、一、二年遊んだとしても息子たちに海外生活の経験をさせることが将来の為になるのではと考え、家族を高雄に呼び寄せることにしました。

当時の高雄日本人学校は、小学一年から中学三年までを合わせても、総勢三十数名という少人数の学校で、長男が編入した中学二年の学生数はわずかに二名でしたし、次男が編入した中学一年の学生数は三、四名、三男が編入した小学五年の生徒数は五、六名という寺子屋状態でした。日本人学校に入るには日本人会への加入が必須条件でしたので、日本人会に入会を致しました。

その当時、私が日本人と付き合うのは日本人学校の運動会くらいだったのですが、生徒数が少ないので父兄の競技が多くありました。競技ごとに参加者を募っており、参加者が少ない競技には参加するよう声をかけられ、午前中だけでも六、七種目に参加するような状態でした。賞品は日本企業からの寄付によるもので、参加するごとに商品を貰ったので、午後の部は参加を遠慮するような状態でした。息子たちは大喜びでしたが、友達の中には賞品を一つも貰えず寂しそうな様子をしている子もいました。

私は米国企業に勤務しておりましたので、日本人との付き合いは殆どなかったのですが、日本人会へ入会しゴルフクラブに入会したことで段々と日本人居留者との付き合いが増えていきました。また、日本人会に入会したことによって、毎月、「日僑会誌」が送られて来るようになりました。暫くして日系企業に職を変え、嘉義に住むようになりましたが、引き続き高雄の日本人会の会員として籍を置いておりました。最初の頃は日本人会誌を集める気はなかったのですが、日本人倶楽部に行きますとバックナンバーが置かれており、それらを自由に持ち帰ることが出来たことと、だんだんと古いものがなくなってきていたことから収集癖が頭を持ち上げてきて、これらの収集を始めることとなりました。海外での日本人倶楽部の会誌は発行部数が少なく、また在留日本人の生活や活動が記されているので研究機関に寄贈する価値があるのではと思います、台湾を離れるまでの間に配布された日本人会誌を集め、日本に持ち帰りました。日本人会の部会は、経済委員会、文化厚生委員会、学校運営委員会、日本人倶楽部運営委員会、幼稚園部会、日本人会誌運営委員会、婦人会等があり、委員の任期は一年でした。また日本人会の会員数は当初四、五百人くらいでしたが、最終的には千人を超したように記憶しております。

私は66歳までは台湾におりましたが、その後は中国の広東省に行き色々な企業のコンサルタント的な仕事を73歳までやってから、仕事を打ち切り日本に引き揚げました。

この度は、神奈川大学非文字資料研究センターで「日僑会誌」を引き取っていただけるとのことですので、寄贈させていただいた次第です。



1974年5月号